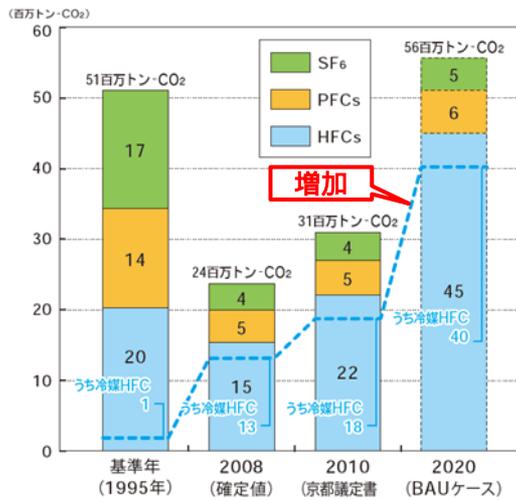


# Techno Report

## フロン漏えい点検のお勧め

地球温暖化対策により代替フロン等3ガス排出量は、約51百万トン-CO<sub>2</sub>(1995年)から約24百万トン-CO<sub>2</sub>(2008年)と減少しています。今後の試算によれば、冷媒分野でのHFCへの転換がさらに進むことで代替フロン等3ガス排出量が急増し、このままでは2020年には56百万トン-CO<sub>2</sub>まで増加する見込みとなっています。増加の主な要因は「業務用冷凍空調機器からのフロンの漏えい」であり、この使用時漏えいが大きな問題となっています。この対策には「フロン漏えい点検整備に精通したエキスパートによる定期点検」が有効です。当社は、RRCの〔冷媒回収事業所認定〕並びに(社)日本冷凍空調設備工業連合会認定の〔漏えい点検資格者〕11名を要してフロン漏えい予防に取り組んでいます。

またオゾン層破壊物質であるフロンR-22の消費量は15%以下に激減し、2020年までの全廃に向けて進んでいます。しかしながら、環境省の大気中濃度測定ではR-22は約3%/年と急速に増加しています。機器の老朽化による漏えい危険性増加と補充用冷媒の全廃が迫っていますので、使用中漏えい点検が非常に重要となっています。機器の状況に応じてR-22使用機器のリニューアル検討をお勧めします。



今後の代替フロン等3ガス排出量の試算  
環境省:「オゾン層に関するパンフレット」より

(社)日本冷凍空調設備工業連合会  
(社)日本冷凍空調工業会  
「フロンチェックのすすめ」より

### システム漏えい点検

目視による冷媒系統全体の外観点検

- ①油漏れ ②局所的な凍結 ③著しい腐食
- ④着霜 ⑤漏れの痕跡 ⑥機器の損傷
- ⑦冷媒液面低下 ⑧溶栓の変形



### 漏えい点検資格者証(例)

